

**令和3年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和3年12月
海老名市立社家小学校**

令和3年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1)教科に関する調査(国語, 算数・数学)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

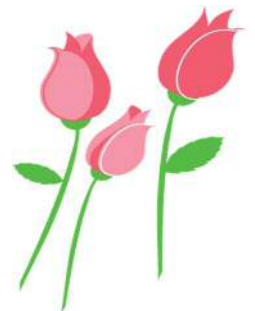
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 (例)調査教科への興味・関心、読書時間、勉強時間の状況、ICT機器の使用状況、生活習慣 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

令和3年5月27日(木)



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうかをみる。
- ・資料を用いた目的を理解することができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかをみる。
- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるかどうかをみる。
- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。
- ・自分の主張が伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。
- ・文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

○話す・聞く力

話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができる児童が比較的多い。正答率は全国平均を1ポイント上回っている。

○思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができる。

正答率は比較的高く、無解答率も低い。

◆課題のある点

○読む・書く力

目的や意図に応じて、理由を明確にしなが自分の考えが伝わるような書き表し方が苦手な児童が多い。正答率は、全国平均より32ポイント下回っている。

○文中における修飾と被修飾の関係の捉えについて理解が十分でない。正答率は、全国平均より、15ポイント下回っている。

○無解答率

問題が後半になるにつれ、無解答率の高さが目立った。

今後の具体的な指導改善のポイント

○読書時間の充実

読書の時間を充実させることによって、文章全体の構成や、意図を読み取る力を伸ばし、読む力の向上に取り組むようにする。

○練習問題への取り組み

問題量をこなし、文章に慣れることをねらいとする。また、制限時間を併せて考え、自分にとって適切な時間配分ができるよう問題に取り組むようにする。



小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・問題場面から、必要な数量を選択し、事柄や関係を数学的に表現・処理することができるかどうかをみる。
- ・伴って変わる二つの数量の関係について考察できるかどうかをみる。
- ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解しているかどうかをみる。
- ・日常生活に必要な時刻を求めることができるかどうかをみる。
- ・基本図形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる。
- ・量の基本的な性質について理解しているかどうかをみる。
- ・図形の計量について、図形を構成する要素などに着目して捉え、筋道を立てて記述できるかどうかをみる。
- ・棒グラフから、データの特徴や傾向を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・データを二つの観点から分類整理し、表に表したり読み取ったりすることができるかどうかをみる。
- ・帯グラフから、複数のデータについての項目の割合を比較し、データの特徴を捉え、表現することができるかどうかをみる。
- ・設定した問題に対して集めるべきデータを判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の意味について理解しているかどうかをみる。
- ・小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し、考え表現することができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

○データの活用の問題

- ・正答率が比較的高い結果となった。棒グラフから数量や項目間の関係を読み取ることができている児童が多い。

○測定領域の問題

- ・正答率が比較的高い結果となった。条件に合う時刻を求めることができている児童が多い。

◆課題のある点

○図形問題

- ・正答率が全国平均より25.9ポイント下回っている。三角形の底辺と高さを捉え、公式を使って求積することに課題が見られた。

○記述問題

- ・どの領域においても正答率が低く、児童が記述式の問題を苦手としていることが分かった。特に、小数を用いた倍についての説明では、無解答率が13.8%と高かった。

今後の具体的な指導改善のポイント

○基礎学力の定着

既習である面積の公式や九九、乗法除法などを単年で終わらせない継続した学習に取り組む。

○自由記述力の強化

問いに対しての説明を解釈し、理由を記述させる活動に慣れさせる活動を取り入れる。



児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

○算数の学習に対する意識

・算数の勉強が大切であると感じ、答えだけでなく考え方をノートに書いて表している児童が多数である。

○話し合い活動

・話し合いの内容を理解して自分の意見を考えたり、友達の意見を聞いたりすることができる児童が多い。

◆本校の課題と思われるところ

○学習に対する気持ち

国語、算数の勉強が好きと回答した児童の割合が、43%、60%と低い結果となり、勉強することに苦手意識がある児童や前向きではない児童が多く見られる。

○授業時間以外の学習時間

1日当たり1時間以上、2時間より少ない児童がほとんどであり、家庭学習の習慣が身につけていない児童が多い。

生活について

◆本校のよかったところ

○友人関係

『友達と協力するのは楽しいと思いますか』の問いに「楽しい」と回答した児童の割合が、93.8%と高い結果となり、友人関係が良好な児童が多いことが見受けられる。

○手助け

「困っているときは進んで助ける」と回答した児童の割合は80%以上であった。友だちに対して思いやりをもって接している児童が比較的多いと言える。

◆本校の課題と思われるところ

○積極性

『難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか』という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が、53.9%と低い結果となり、苦手なことや嫌いなことは避ける傾向にある。

○いじめに対する意識

『いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか。』という質問に対して、「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童が12.3%いることから、いじめは許容されることだとう認識をもつ児童が少なからずいると考えられる。

今後の具体的な取組について

○授業での活動の工夫を行う。

・算数で友達と協力して課題解決学習に取り組む、国語で話し合い活動の時間を多く取り入れるなど、学習内容を自分事としてとらえ、意欲的な学習ができるよう指導の工夫を行う。

○いじめは絶対に許さないという心情を養う。

・学校生活全般において、いじめが起きないように指導を徹底する。

○家庭学習への取り組みを充実させる。

・家庭学習に取り組めるよう、机に向かう習慣付け、基礎基本の定着を図る。



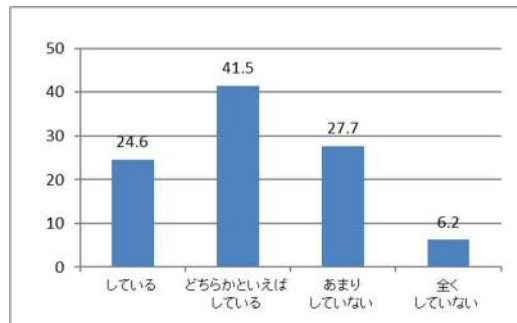
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1

毎日、同じくらいの時刻に寝るようにしましょう

朝、すっきり目を覚ますには早く寝ることが大切です。夜更かし等はせず、早寝・早起きの生活リズムをつくっていきましょう。

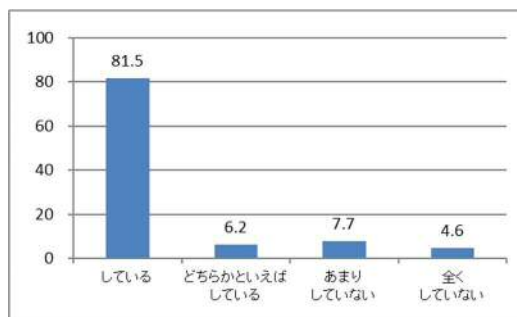


毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

2

朝食を毎日、食べるようにしましょう

決まった時間に起きて朝ごはんを食べることで、一日の体のリズムが整います。また、学校で学習をおこなうとき、集中力も上がります。毎日を健康で過ごすことができるよう取り組んでいきましょう。

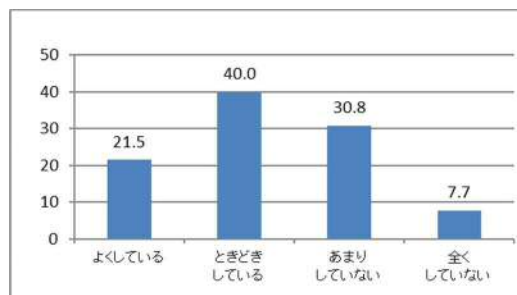


朝食を毎日食べていますか

3

計画的に学習に取り組みましょう

学校から出される課題だけでなく、予習や復習など自分で計画を立てて学習に取り組めるように励ましてください。

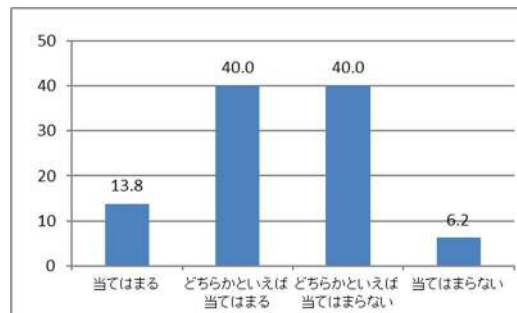


家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

4

自分の思いを自分の言葉で伝えられるようにしましょう

人とのかわりのなかで、自分の思いを言葉で伝えることは、とても大切です。将来のために学校や家庭でコミュニケーションを取りやすい環境をつくっていきましょう。



自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【主体的・対話的で深い学び】

- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげている
- ・自分の考えが伝わるように工夫して発表している
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

【学級活動、道徳】

- ・学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日摂る
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る
- ・コンピュータやスマートフォン等でゲームをする時間が短い

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で学習計画を立てて学習をする
- ・家に本が多くある

【自尊感情・規範意識】

- ・自分には、よいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

